

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里(白樺)		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	平成30年7月11日	評価結果市町村受理日	平成30年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=3071000453-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に囲まれ、リビングからは四季の移り変わりを肌で感じる事ができます。家庭的な雰囲気を大切に、花見、お正月、クリスマス会、誕生日ケーキなど大きなイベントは手料理にて食事を美味しく、楽しんで頂いています。日頃の食事作りは一人ひとりの機能に合わせ、できるお手伝いをお願いしています。食事を美味しく食べるために、毎食後の口腔ケア、歯科衛生士の指導を受けています。地域の方との関係性を大切に、地域の草刈り等積極的に参加しています。運動会参加、盆踊り、クリスマス会は、楽しみの恒例行事となっています。看取り支援にも取り組んでおり、最後までその人らしく穏やかに過ごせる様に努めています。同じ敷地内託児所や社宅を設け、又、毎月抽選で野球観戦チケットやシネマのチケットが当たり職員のリフレッシュを含め、働きやすい環境に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭的な雰囲気の中で利用者の思いに寄り添い、一人ひとりに合わせた暮らしが提供できるような力を活かし調理等の家事や編み物等の得意な事に携わり役割を持ちながら暮らせるよう支援をしています。また運動会や盆踊り等の地域行事への参加や桜や紫陽花、ひまわり等の季節毎の花見の他、家族や地域の方を招いた餅つきやクリスマス会等のイベントも多く、利用者の楽しみとなっています。また食事では利用者と共に調理し家庭的な団欒の中で職員も一緒に食事を摂り、献立も利用者に希望を聞きいたり、旬の物を提供し、その他手作り餃子、流し素麺、クリスマスのパイキング、干し柿やおやつ作り等食べる事を楽しめるよう支援しています。また医師や看護師と連携を図り家族の協力も得ながら意向に添った終末期支援にもチームで取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を介護の柱とし逸脱する事が無い様、職員は常に重きをおき、理念に添って実践出来るよう努めている。	法人理念を基に3項目からなる独自の理念を作成し玄関の見やすい場所に掲示しています。長く務める職員が多く理念は浸透しており、会議の中で利用者の尊厳を守り、一人ひとりの残存能力を活かしながら暮らせるような対応や支援ができています。また理念を分かりやすく簡素化を検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(盆踊り、運動会)の参加、盆踊りで品評されていた手作りスタンドを教えに来て下さる事もあった。傾聴ボランティアの月1回の訪問は顔見知りに関係が築けており利用者様も安心感が見られ、いつもの表情で過ごす事が出来ている。	地域の運動会や盆踊りに参加したり、秋祭りの子ども神輿はホーム前まで来て利用者と一緒に見学をしています。またホームのクリスマス会はボランティアの協力や長寿会の方等の参加を得て共に楽しんだり、定期的なボランティアの来訪の他、法人主催の祭りやホームの餅つき等では子どものダンスや遊戯の披露があり併設施設や託児所の子どもたちとも交流しています。また地域の一員として草刈り等に職員が参加をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運動会参加においては、地域の方が見守りや話相手になってくださる場面も見られる。クリスマス会には毎年ボランティア様に参加頂き、お手伝いの力添えを得ている。地域の方との食事や、出し物を楽しむ事で共に過ごす事で、理解を得る機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険課、老人会会長、区長、長寿会会長等の参加の下、隔月に開催している。ホームの状況報告、行事報告、外部評価後には評価の説明を行っている。	会議は複数の区長や市職員、都合が合う時は長寿会副会長等の参加を得て開催しています。利用者の状況や行事の予定や報告を行い意見交換をしています。市職員から介護保険の改訂や状況等の話を聞いたり、災害時の地区の状況やホームへのアドバイス、地域行事の案内等をもらい参加する等運営に活かせる意義ある会議となっています。	家族の参加が難しい状況となっていますが、会議の内容を伝えたり、参加しやすい日のアンケートを取るなどの工夫をされていますので働きかけを継続し参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて介護保険担当者の方とは、連絡を取り合っている。運営推進会議に介護保険課の担当者の参加があり新しい情報の交換交流ができています。	市職員は運営推進会議に参加を得ており、分からないことなどがあれば会議時や市役所に出向いたり、電話などで随時相談し良好な関係を築いています。また研修案内も届いており内容により参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関やホーム内の鍵は施錠せず、自由に出入りする事ができる様になっている。転倒防止へのペット柵は本人への了解、又希望を得て使用もあるが、自身でコールを鳴らせる方のみである。何が拘束になるのかなど、フロア一会議にて話し合いをもっている。	フロア会議の中で身体拘束に関する勉強会を行い、不参加の職員には資料や会議録等で伝達しています。行動を止める声掛けが見られた時は注意をしたり、会議時にも話し合うと共に出入口は施錠せず外出希望の利用者には付き添っています。また安全の為のペット柵やセンサーマット、車いすの安全ベルト等を使用する場合は本人や家族の了承と共に記録に残し会議でも必要性を話し合っています。	

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テーマに沿い、2ヶ月に一度勉強会実施。虐待や身体拘束等について学び、ゼロ宣言と常に発せられる職場であるよう皆で考え直す機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所されている方で後見人制度等必要とされる方があまりなく勉強できていない。今後独居や子供のおられない方も増えてくると思われるので勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前見学をして頂き、環境や生活の様子を実際に見て頂いたり契約時には不安な点がない様話し合いを持つよう心掛けている。改定時には事前にお知らせにて文章説明、新たに契約を結び再度説明、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望があれば毎月の支払時や面会時にお話しする機会を設けたり職員がお聞きした疑問点等でお答えする事が難しい場合は、改めて管理者より連絡をし、不安や不信感に至るまでに早急に解決出来る様努めている。	利用者からは関わりの中で希望を聞き食べたい物を食事に取り入れたり、外に出たい希望には外気浴を兼ねて気分転換を図る等その都度対応しています。家族は月に1度の来訪の他、クリスマス等の行事への参加もあり、様子を伝える中で意見を聞き、管理者不在時でも職員が話をしよう努めています。意見を受けて夜の勤務体制を変更し手厚くする等、その都度職員間で検討しサービスの向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月にフロア—会議で各職員が自由に意見を出せ、又良い方向に進める様皆で話し合っている。実現可能な事はすぐ対応する様に努めている。	毎月のフロア会議は職員が書記と司会を交代で務め全員が発言し意見を出せるよう工夫をしています。会議では多くの意見や提案が出されており、職員間で話し合いケアの統一や物品購入などに繋げています。また年に1度の個別面談の機会や日々の中で随時職員の意見を聞いたり、月に1度の法人会議にも1~2名の職員が出席しており意見を出せる機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や等級制度を採用し頑張っている人が認められる様に努めているが、給料水準が皆の満足には至っていないのが現状ではある。夜勤手当の見直し等、改善に向け調整を行っている。勤務については希望、有給合わせ3回の希望が前提だが出来るだけ希望に沿い柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外への研修は人員の問題もあり数人となっている。介護福祉士実務者研修の為の勤務日の調整、又、介護福祉士、ケアマネジャーの資格習得を奨励し、合格者には奨励金制度を設けている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との相互訪問、交流の機会はもてていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネ、家族様より情報を得、全職員で共有、不安なく過ごす事が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や不安に思われている事は時間をとってお聞きし、入所間もない頃は密に家族様に連絡を入れ、協力を得ながら落ち着いた生活が送れる様に支援している。又、どの職員にも声掛けがし易いと思ってい頂ける様な雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っていたか、何が一番大変だったか、状態により必要とされているニーズを見極めより希望に沿える施設を紹介させて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の残存能力や今までの生活を考慮し、役割や達成感が持てる様努め、又感謝の気持ちを十分に伝え、人の役にたつ喜びを感じてもらえる様に心掛けているが年齢とともに意欲の低下や体力の低下もあり難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時も常に家族様と職員と共に利用者さんを支えて行く事をお話し協力を得る事が出来る家族様は受診支援や外出支援等協力を得ている。一方、全面的に施設任せになられてしまう事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人が面会に来られた場合、楽しく団らん出来る様、お茶の提供したり、笑顔での対応を心掛け、いつでも気軽に訪問出来る雰囲気作りに努めている。	孫やひ孫などの親戚や会社の元後輩などの来訪時は居室などでゆっくりできるよう配慮をしています。家族と共に馴染みのかかりつけ医の受診や理美容院、親戚の集まりなどに出かける方は体調管理や薬の準備、身支度などを支援し、職員が法事に付き添ったこともあります。また電話の取次ぎや手紙のやり取りをする方もおり、宛名書きや切手の購入、投函など関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を見極めトラブルが起きないように、又職員がフォロー出来る様常に気配りし、共に認め合い助け合える関係性を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院にて契約が中断終了した場合でもお見舞いに行き今後の相談や支援に努めている。又他界されたとの連絡を頂いた時は、出来るだけ最後のお見送りに参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際にアセスメントシートに目を通し概容把握、個々に接している中で希望や意向の把握に努め迅速に対応できる様、申し送りノートに記入し月1回のフロア会議にて検討し共有に努めている。	入居の際は自宅を訪問したり、見学を兼ねた来訪時などにホームで望む暮らしや生活歴、趣味、身体状況などを聞き意向の把握に繋げています。入居後は日々関わる中で思いを聞き、意思表示の出来ない方は表情などから汲み取ったり家族にも聞きながら担当職員が本人本位に考え、またフロア会議でも話し合い意向に添った暮らしになるよう把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時には、家族様、本人、ケアマネに生活歴をお聞きしアセスメントシートを通して職員皆で共有している。又、本人、家族様より得た新たな情報は会議等や申し送り等で報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を記入、業務日誌にまとめ、日中、夜勤と一日の状態を把握介助にあたる様にしている。身体的特変は赤字で、様子の変化や本人の訴えを青字で記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点や改善案などを会議で皆と話し合い担当職員が立案、ケアマネが見直しを行いケアプランに取り入れている。家族様、本人には面会時、計画見直し時に、医師には往診時に医療の面からの意見をお聞きし介護計画に反映している。	本人や家族の意向を基に利用者毎に日中と夜間帯の介護計画を作成しています。通常3ヶ月毎にモニタリング、評価し計画を見直し、利用者に変化があった場合は担当職員から提案が上がり、職員間でより良い対応や暮らしを考え随時介護計画を見直しています。見直しに向けては再アセスメントを行い現状の把握に努めたり、必要に応じて往診時などに確認した主治医の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の様子や状態を記録に残すよう様に努めているが、見直しに活かすところまでの記録は出来ていないと思われる。日々の利用者の様子や会議提案を基に見直してをしている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、緊急受診支援、入院時の食事介助、家族様の状況に応じて本人様の必要となった物を家族様の承諾を得て購入して来たり等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会参加、昼食時のお茶を振る舞い、自身が主体となる良い機会を設けて頂いている。月1回の傾聴ボランティア様とも馴染みの関係性が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の判断で決められており、状態に応じて受診も同行し、往診への切り替えも話し合いによって希望に添える様な形をとっている。又往診時の先生の話のやりとりも家族様に正確に伝えられる記録に残している。	利用者はこれまでのかかりつけ医を家族と共に受診したり往診を受け、緊急時や家族が付き添えない場合は職員が付き添っています。月に1度協力医の往診の他、往診専門医もおり利用者個々の状況に合わせて診察を受けています。また利用者の体調不良時などはかかりつけ医や法人の看護師に相談し対応しています。訪問歯科は週に1度、口腔ケアや治療が必要な方が受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録に特変や気づいた事など記入し看護師さんへ正確に伝え支持を仰いでいる。又、看取りの利用者様にはその日の食事量や体調の様子を個人ケースとは別に記録を作り記入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、支援相談員、病院の看護師より情報を得ている。入院中は看護師よりの承諾の下食事介助支援をすることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の段階に応じて、家族様との話し合いをもっている。医療的なニーズがあるのか、自施設での穏やかな終末期を願っているのか、意向に添えるように努めている。	入居時に指針を基に家族の協力が得られる場合等は終末期の支援ができることを伝え、食事量が減少する等の体調の変化に合わせて家族の意向を再確認しています。支援を行う際は時には往診医に変更する等の体制を整え、医師と話し合った内容を職員間で共有し往診医や看護師から具体的な対応を聞いたり、家族の協力も得ながら利用者が安楽に過ごしやすいよう環境を整えホームでできる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士さんの協力を得て避難訓練や心肺蘇生の対応方法を学んでいる。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練、消防署の協力や併設の施設協力を得、訓練を行っている。地域運営推進会議の話の中で地域の協力を仰いでいる。	年に2回昼夜を想定した訓練の内、1度は消防署の協力を得て通報やシーツを用いた階段での避難、消火器の使用方法等を行い消防署員からアドバイスを得ています。土砂崩れ等の地震を想定した訓練ではコンロを使用した炊飯等も行っていません。法人全体で協力体制を築くと共に運営推進会議で災害時の協力を依頼しています。また非常食や薬、衛生用品などの準備をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議にて言葉遣いに対しては議題にあげ、指示や命令口調、声のトーンについて、気をつけ、寄り添う介護でありたいと思う。	フロア会議の中で接遇マナーや言葉遣いなどについて勉強会を行い、職員へは利用者は目上の方として尊重しながらも堅苦しくならず第三者が聞いても違和感のない丁寧な対応をするよう伝えています。苗字での声掛けを基本にしていますが、呼ばれ慣れた呼称で呼ぶこともあります。また入浴や更衣などは同性介助の希望に添い、トイレの声掛けなどは羞恥心に配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の意に添える様、傾聴し、不安な要素を取り除く様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を終日とはいかないが支援出来る限りと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全ての人が自己決定する事は難しく職員での決定となる事が多々あるが、毎日同じ服にならないように、又、自身で服を選ぶ事の出来る方はお聞きしている。朝の整容にも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は同じものが重ならないように、又季節の食材を使い一人ひとりの好き嫌いや形態に配慮しています。誕生日、花見、クリスマス会、お正月はいつもとは違う特別食にて提供、時にはお寿司の夕食に出かける事もあり、楽しめる様に支援しています。	利用者に食べたい物を聞いたり、旬の物や肉や魚が重ならないよう献立を決めています。利用者には野菜の下拵えや盛り付け、配膳などに携わってもらい、職員も共に食卓に着き談笑しながら同じ食事を摂っています。誕生日には手作りケーキと共に献立の希望を聞いたり、手作り餃子や流し素麺、クリスマスのバイキングなどの他、回転寿司や喫茶店に行ったり、干し柿や桜餅などのおやつ作りも楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の個人記録に食事量、水分量を記録し食事量低下時には、本人の好まれる果物等を追加提供している。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施、自ら出来る方は声掛け見守り、寝る前にはホリデント使用衛生に配慮している。週1回、歯科衛生士による口腔ケア、指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの記録から排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行ける様に支援しています。再三のトイレ訴えの方には、次に行く時間を伝え対応している。パットの種類の使い分けを行い、気持ちよく過ごせる様に配慮している。	個々の排泄記録を参考に排泄パターンを把握し、タイミングを見て声掛けやトイレ誘導を行っています。夜間はポータブルトイレを使用する方や排泄用品については昼と夜、夏と冬などの状況を考え選択したり、日々の中で随時検討を行いできるだけ布の下着で過ごし現状が維持できるよう努めています。またおむつを使用して退院の方についても速やかに元の状態に戻るよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無は排便表で確認し主治医指示のもと薬の調整を行っている。朝のコーヒー時には牛乳を使い、一日の水分量を把握、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と時間を設け隔日に入浴やシャワー浴して頂いている。	入浴は日中の時間帯に隔日に支援し希望の時間などを聞きながら入ってもらっています。入浴剤を入れたり、季節の柚子や菖蒲湯なども行い職員と話しながらゆっくり入ってもらっています。入浴を断る方には時間を変更したり、声掛けを工夫しながら無理のない入浴に繋げています。また寒い季節には暖房などで浴室や脱衣室の温度にも配慮をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、お部屋で休む時間、リクライニングで過ごせる様に声掛けをしている。掛け布団は、羽毛を使い、マットは高反発を使用し身体に負担を軽減させている。2週間に1度はシーツ交換、敷布等を洗濯、何時も清潔を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬ケースに薬名、用法が記入されたものが添付されており、服薬の変更や臨時薬がある時はケースに付箋を付け、又申し送りノートで共有、新しい薬を飲み始めての様子を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担の内容に考慮しつつ、出来る範囲でのお手伝いをお願いし、又自身の役割として進んでして下さる事もある。毎日日勤、読書、計算ドリル、オセロ等を行い、楽しみごととして支援している。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添うことは難しいが、気候の良い季節は、お弁当を持ち、近隣に遠足に出かける事もある。又家族様の支援を得、定期的に自宅に帰られる方もある。	気候の良い時期はホーム周辺の散歩や外気浴、畑の草取りや収穫などを楽しんでもらっています。年間を通して初詣に始まり、桜や紫陽花、ひまわり、コスモスなどの花見に行っており、家族を誘って一泊旅行に出かける事もあります。またファミリーレストランへおやつを食べに行ったり、盆踊りや運動会などの地域行事に出掛けるなど外出を楽しめるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現利用者で所持している方はいないが、本人の強い希望があれば、意に添うことはできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取り、希望に応じて電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生に気をつけ清潔に保つように配慮し、室温計にて温度、湿度調整を行い、共有空間や玄関には季節の花を飾り、時には音楽を流したりと居心地よく過ごせる様に努めている。	共用空間は広く開放感がありソファや椅子、ベンチなどを随所に置き好きな場所を選び寛げるようにしています。また暖色系の照明や静かな音楽を流し落ち着ける空間作りや正月には利用者で作った鏡餅を飾り、雛飾りや七夕飾りなど季節を感じることができるよう配慮をしています。また日々掃除を行い加湿器や空気清浄機を置き清潔で過ごしやすいよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには机が2か所、ソファが数か所置かれており、思い思いの場所で過ごせる様に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入所時には使い慣れた物と説明させて頂いている。鏡台やテレビ、衣装ダンス等、家族や	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう家族に伝え、利用者はテレビやビデオ、鏡台や座卓、自宅で使用していたミシンや編み物の道具などの馴染みの物を持参しており、自宅も参考に過ごしやすいよう配置をしています。また孫などの写真や届いた手紙を飾ったり、趣味の将棋を録画し観て過ごす方などもおり、自宅のように寛いで過ごせるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の必要に応じ、トイレ等に目印をつけ、対応している。		